

ふくしまの森林文化調査カード

No.22

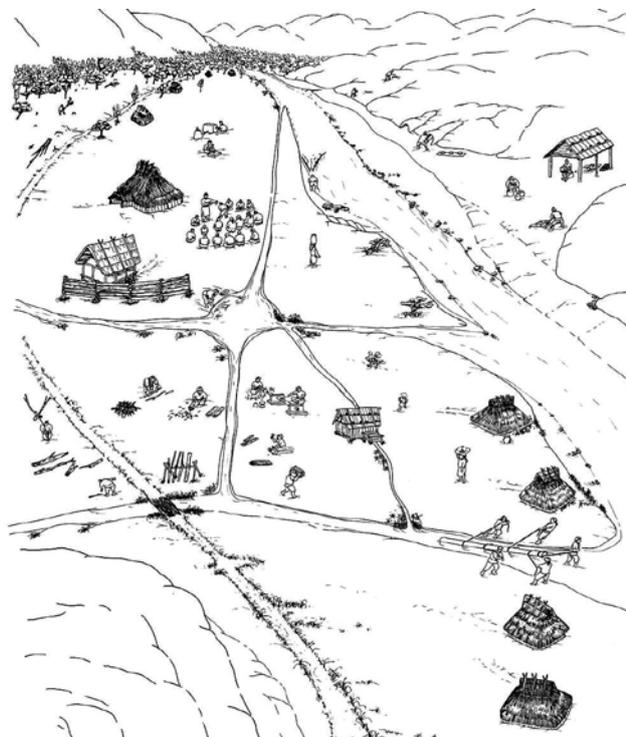
県 HP公開の可否 (可 ・ 否)

区分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野(ふりがな)	(分野) 遺跡	(ふりがな) いせき	
地域独特の呼び方	—	—	
タイトル	森のすがた(いわき市大猿田遺跡)		
伝承地域	—		
由来(年代)	8～9世紀頃の遺跡		
内容	<p>いわき市大猿田遺跡(8世紀～9世紀)の発掘調査データは、人々を取り巻く木々、木材資源として活用された木々、食用として珍重された木々の姿を明らかにしている。また、人間が森とかかわることによって、森のすがたがどのように変化していったかを理解することができる。大猿田遺跡の花粉分析結果によると、縄文時代にはコナラ属コナラ亜属を主体とする落葉広葉樹優勢の森が形成されているが、古代磐城郡の施策による木製品生産加工場となる8世紀(奈良時代)には、針葉樹と広葉樹のバランスが崩れ始める。9世紀(平安時代)になると針葉樹が優勢となり、人々が遺跡から去った10世紀以降は、再び落葉広葉樹の割合が回復していることがわかる。遺跡からは、加工された木製品のほか、森から伐採された木材、加工の際に削り取られた木片などが出土したほか、種子なども多く発見されている。また、遺跡から検出された自然木や木製品、花粉データには認められないモモ・スモモ・ウメの種が、8世紀代の遺跡から大量に出土している。これらは遠方から食用として運ばれたものと思われ、フルーツ王国ふくしまの古代の食生活を知るうえで興味深いものである。</p>		
大きさ・材質	(大きさ) —	(材質) —	
見頃	—		
交通アクセス	市内バス:福島駅東口～市内循環バス～「文化センター入口」下車 徒歩5分		
文化財等の指定状況	—		
問い合わせ先	福島県歴史資料館(Tel:024-534-9193)		

【フリーフォーマット】

キーワード

想像図(木材加工風景)画像提供:福島県教育委員会



奈良時代に切り出されたマツ材
写真提供:福島県教育委員会



右上:奈良時代の溝から発見されたモモの種子

右下:奈良時代のオニグルミ

福島県教育委員会蔵